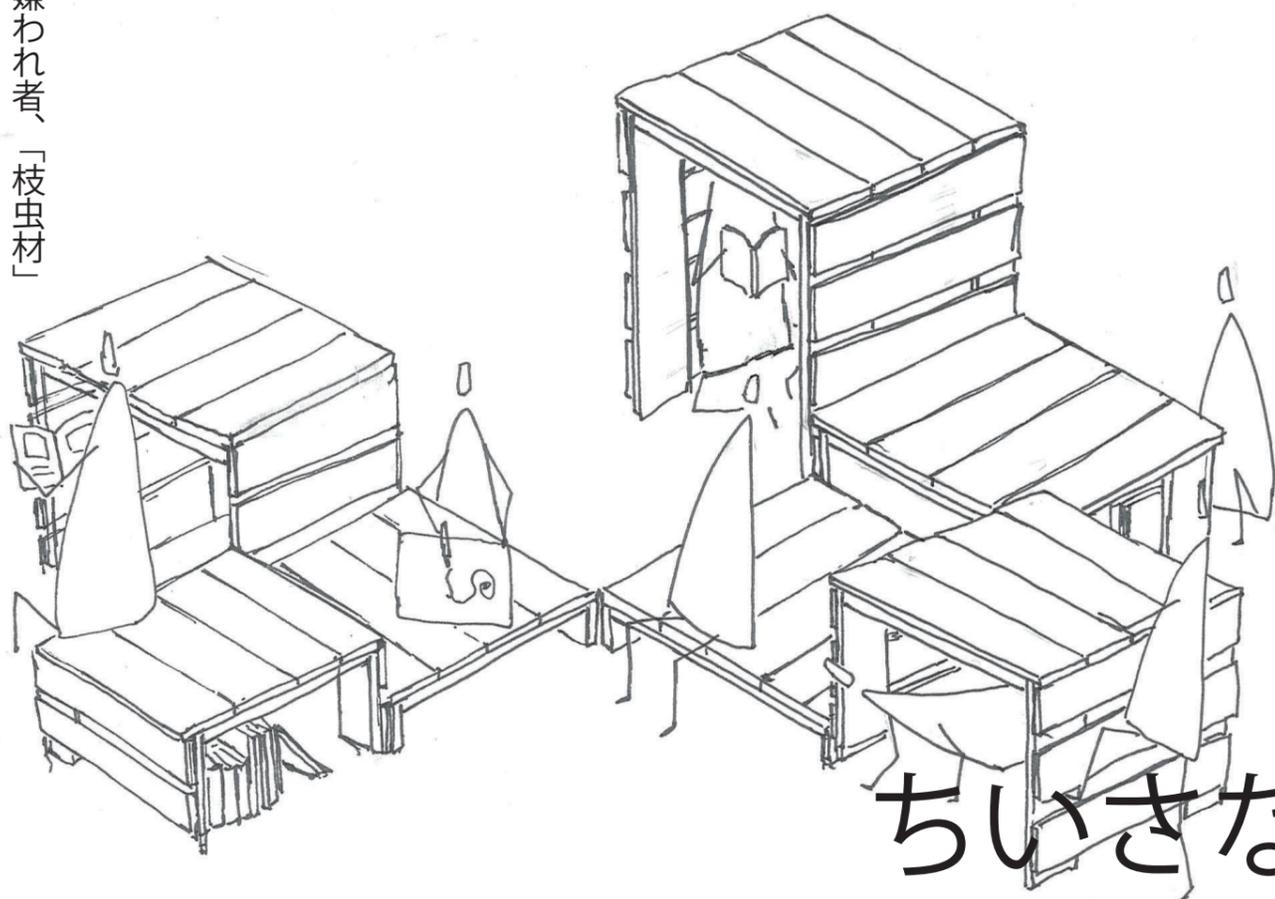


嫌われ者、「枝虫材」
でもそれは、
森のアーティストからの
メッセージなのかもしれない
自然からのメッセージを、子供達が
受け取り、気づき、学び、楽しむ空間を私たちは提案する。



枝の隙間のちいさな居場所

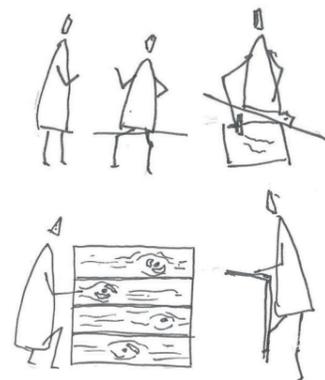
1. 枝虫材とは



枝虫材は、杉、桧の枝打ちがされていない木にスギノアカネトラカミキリが卵を産み虫食い跡が残った材である。年々、強度や腐朽については問題ないことが実験により証明されている。しかし、見た目の悪さから嫌われ、見えない部分での使用もしくは燃料用チップとして活用されている現状である。

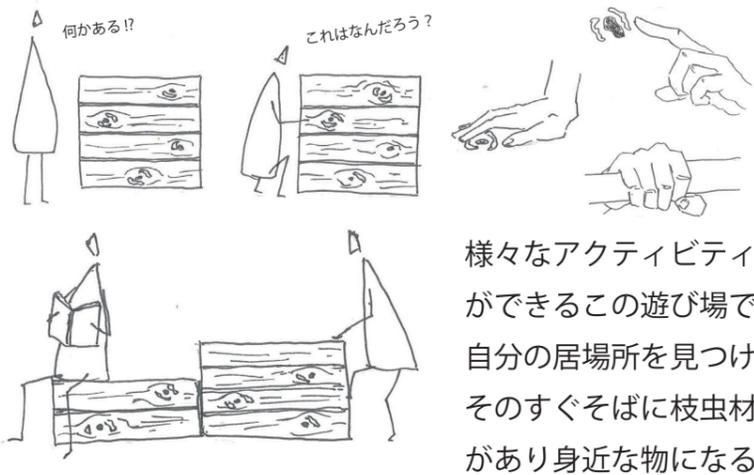
2. 枝虫材と過ごす

子供の心は、好奇心で溢れている。そんな子供達が枝虫材と触れ合うことで自然の仕組みや摂理、魅力に気づき、学ぶことができる。そこで、子供たちが使用する遊具に枝虫材を使用し遊びながら枝虫材について知る機会を創出する。

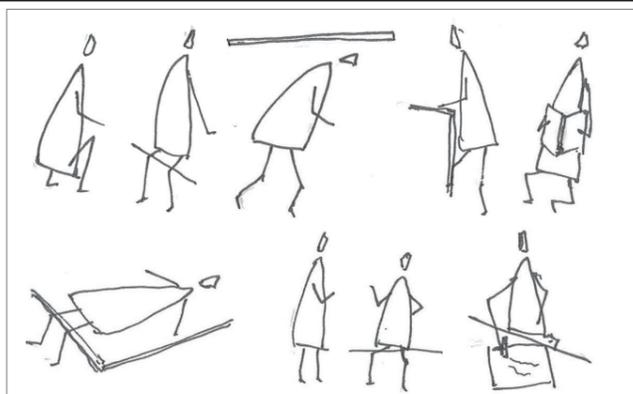


3. コンセプトダイアグラム

アクティビティの中で枝虫材の感触などを知り興味を持つ



4. アクティビティとの融合



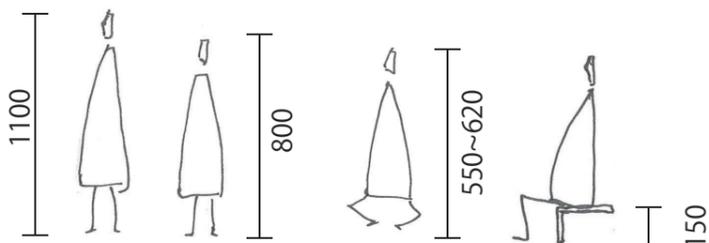
虫食い跡を発見する

下記のアクティビティが近くで発生することで、お互い刺激を受け合い真似をし、子供の成長に繋がる

しゃがむ、座る、くぐる、登る
本を読む、話す、寝る、書く

そのアクティビティの中で、子供達は常に枝虫材に触れ、枝虫材の存在削れた節の感触、そこに湧く興味が枝虫材を見つけるに変化していく

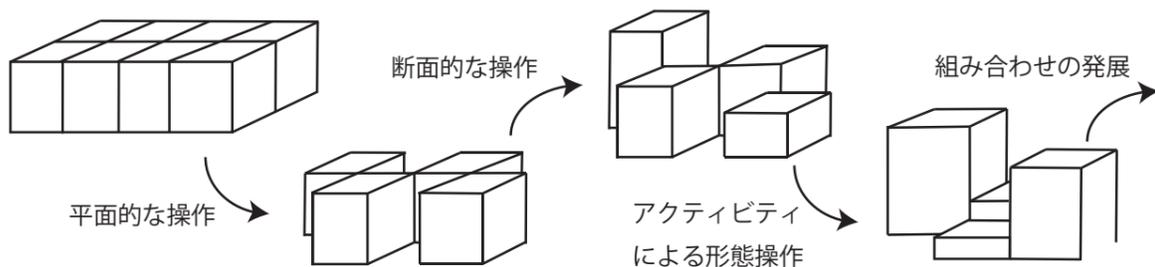
5. 子供のスケールからの



子供のための居場所形成のため、子供の身体規格に合うスケール検討した。本提案の対象は園児の4~7歳

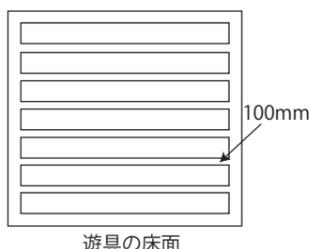
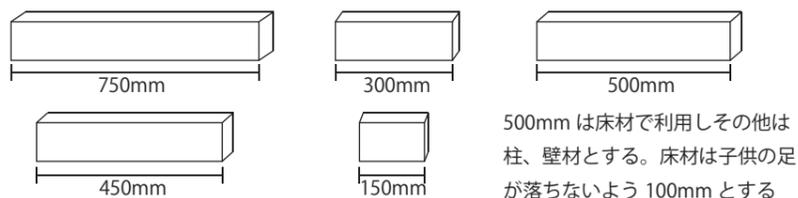
6. 形態ダイアグラム

ひとつの箱から平面的、断面的に操作を行い、様々なアクティビティが起こる物になる

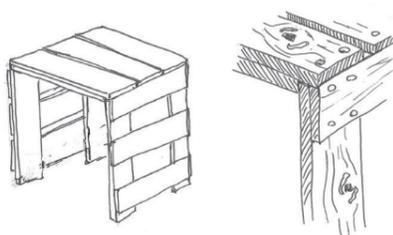


7. 部材の使い方

2000×1200×45の枝虫材を用いて本提案の遊具を施工する



8. 構造



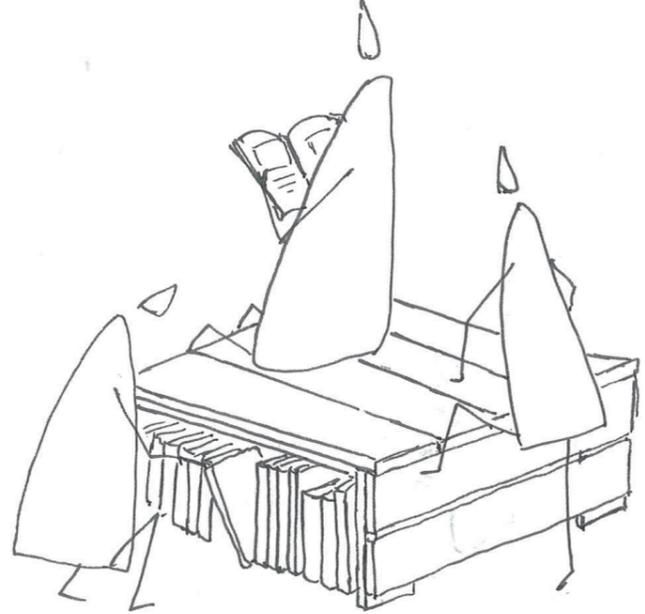
基本構造はラーメン構造とし柱と梁の接合部はビスで固定ユニット同士が接合する際に隙間ができず接合できるように接着面積を増やし安定させる

9. 子供たちの新しい遊び場

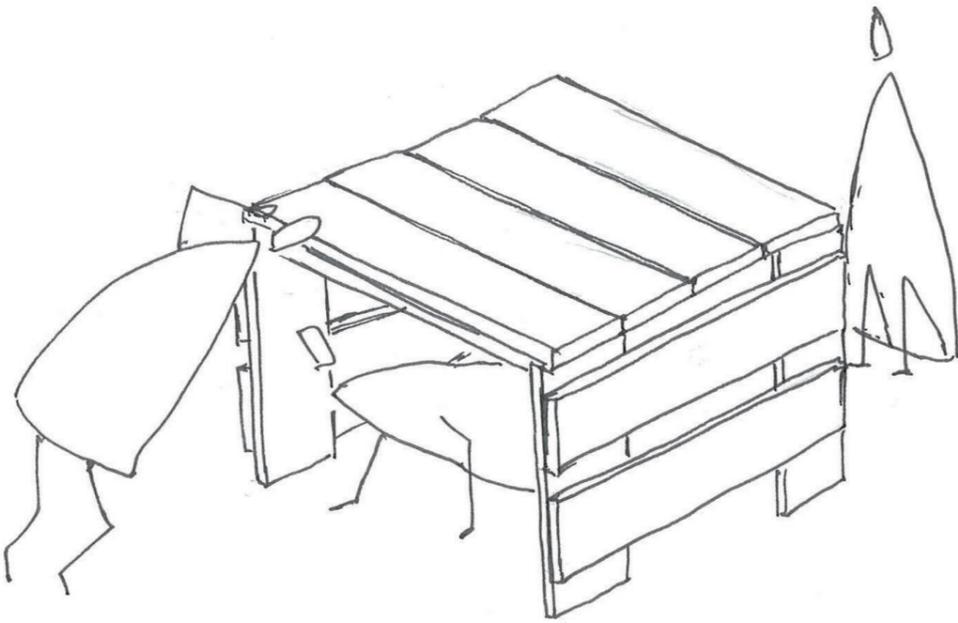
高さ 150mm では座る、書くのアクティビティが起こる



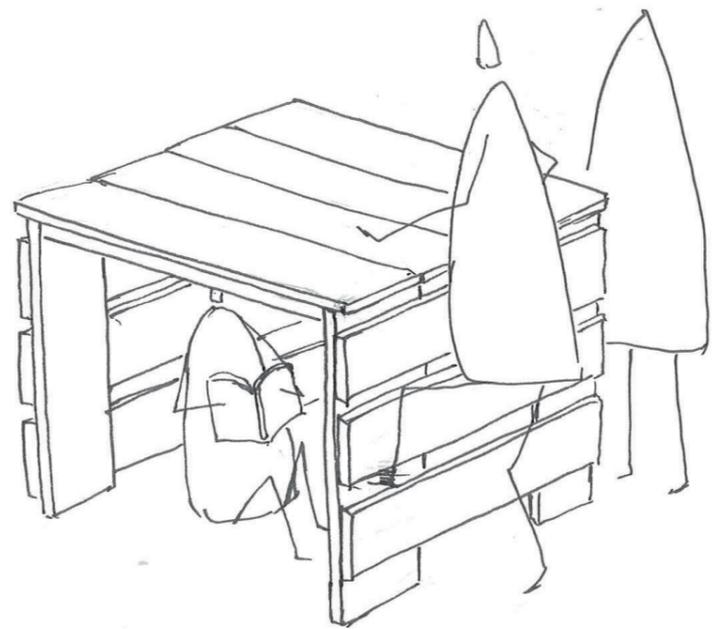
高さ 300mm では本を読む、登る、座るのアクティビティが起こる



高さ 450mm ではくぐる、座る、覗き込むのアクティビティが起こる

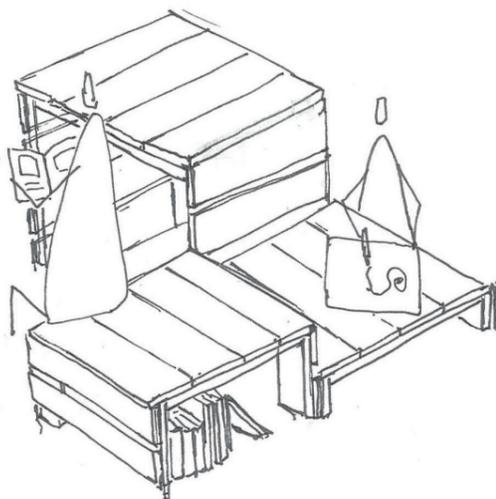
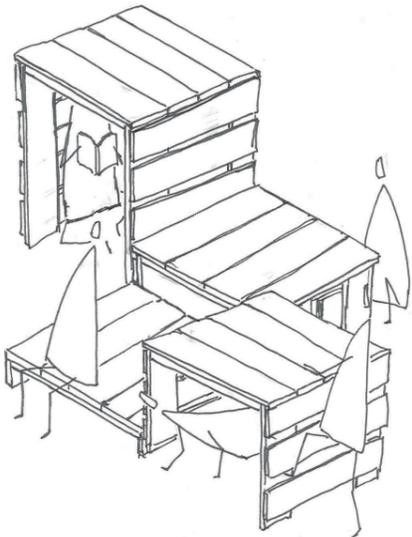


高さ 750mm では本を読む、登る、もたれるのアクティビティが起こる



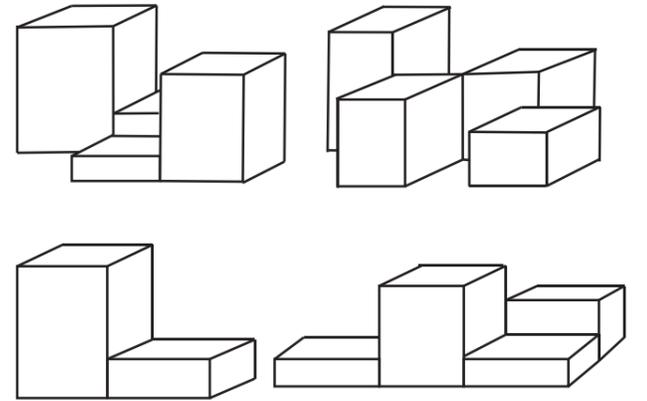
10. 合体し増えるアクティビティ

遊び場が組み合わさることで遊び場の範囲が広がり居場所のきっかけが広がる



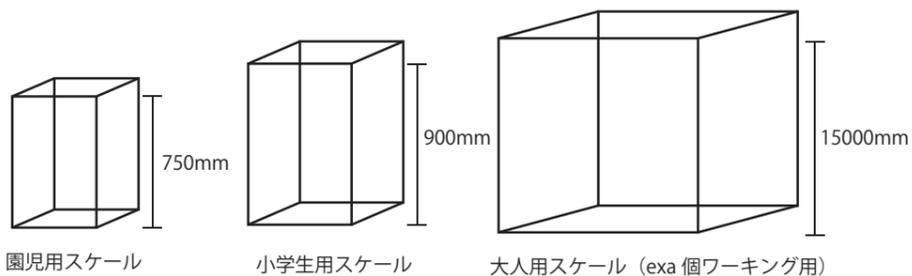
11. 柔軟に変換できる遊具

一つひとつがボックス型のため、屋内などの配置場所に制限がある場所でも自由な形で箱を組み合わせ、遊び場を提供することが可能

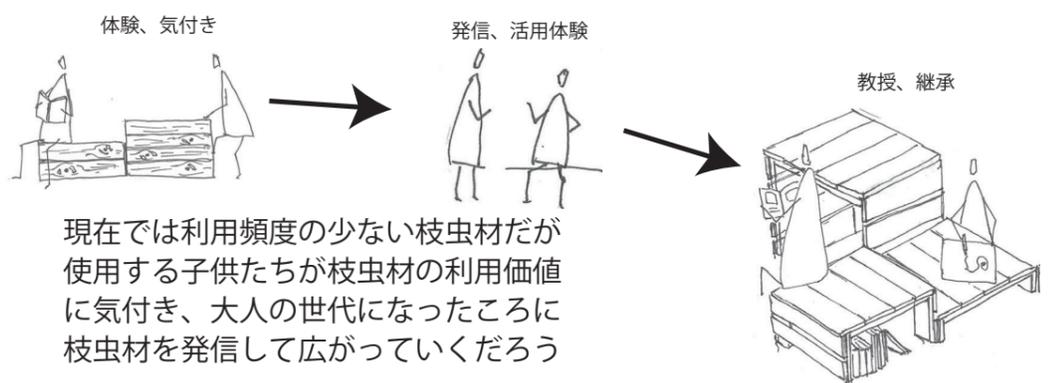


12. スケールの変化で広がる可能性

本提案では最大の高さが 750mm だが遊び場のスケールを変化させることによって老若男女が利用できる物になる可能性あり



13. 広がっていく枝虫材



現在では利用頻度の少ない枝虫材だが使用する子供たちが枝虫材の利用価値に気付き、大人の世代になったところに枝虫材を発信して広がっていくだろう